2024年度後期　1級実技試験
採点官、面接試験官から観た受検者の傾向

厚生労働大臣指定試験機関
キャリアコンサルティング協議会

キャリアコンサルティング技能検定1級の実技試験の採点を担当した採点官、面接試験官から寄せられた意見を掲載いたします。本稿は受検者個々人の課題を表すものではなく、受検者全体の傾向として取りまとめたものです。なお、これらは合否判定結果とは一切関係なく、試験の合否について説明するものではないことをご理解ください。

キャリアコンサルティングの経験を積む中で、事例指導を行うとともに、自身のキャリアコンサルティングについても指導を受けるといった繰り返しを通して、さらによりよい支援ができるようになると思います。本掲載が指導者として、そしてキャリアコンサルタントとしての能力向上を図る学習等の参考となれば幸いです。

＜実技（論述）試験の傾向＞

■「相談者が訴えた「問題」は何か」について
・総じて相談者が訴える「問題」はよく捉えられているように感じました。
・一方で、「問題」の周辺にある小さい事柄にこだわり、それを書き連ねている回答も一部で見られました。本設問は、相談者の主訴を捉えるという、2級でも問われる基本的なスキルです。問題が起こる要因」に目が行きがちではあると思いますが、1級において受検者は「事例指導者」という視点にはなりますので、事例を通じ「相談者はなぜ相談に来たのか」ということをまずはつかんでいただきたいと思います。

■　「あなたが考える見立てに基づき、相談者Ａ自身が問題を解決するために取り組むきことは何か」について
・相談者と事例相談者のそれぞれの問題を区別できる受検者が増えた印象です。
・一方で、全般的に「自己理解不足」「仕事理解不足」「コミュニケーション不足」「中長期の検討不足」と単に概念だけで答え、具体性に欠く回答が目立ちました。例えばですが、今回の事例の相談者は、最近、転職活動をあまり積極的に行えていませんが、どのようなことからその原因が「コミュニケーション不足」だと言えるのでしょうか。また本設問は、「相談者Ａ自身が問題を解決するために取り組むべきこと」を問うていますが、受検者の見立てに留まる回答も少なくありませんでした。「取り組み」として書きたいことは想像は出来るものの、それでは指導としては弱く、論理性に課題を感じたことも事実です。

■　「相談者Ａ自身が自分の問題を解決するために活用可能な社会的ネットワークは何か」について
・活用可能な社会的ネットワークの記載について、的確な回答が増えたように思います。
・一方で、網羅性が低い回答も一部で見られました。多面的な視点で問題を捉え、問題解決に向けて活用可能な選択肢を考えることが大切ですが、視点の広がりが不足していると思われる回答は少し気になりました。また目的に照らした具体的な社会的ネットワークではなく、相談者が取るべき行動等を記述される受検者もいらっしゃいました。

■　「事例相談者の相談者への対応について「問題」だと思うこと」について
・キャリアコンサルタント視点での事例相談者の問題把握については、やや一般的な内容が多かったものの、適切に捉えられている受検者も増えた印象です。
・一方で、前年度から同様の内容となりますが、事前に傾向と対策のようなものを用意されていると感じられる回答も多かったのは、残念に感じました。繰り返しになりますが、事例相談者の成長のための指導ですので、しっかり本事例に向き合っていただき「キャリアコンサルタント（事例相談者）がどのような対応をし、何が起こったか」を掴み取っていただきたいと思います。

■　「事例相談者の「問題」に対する、事例指導（またはスーパービジョン）における具体的な指導方法」について
・具体的な指導内容が記載された回答も増え、事例指導を実際に行なっていることが推測されました。
・一方で、改善すべきことに固執してしまい、具体的な指導がない回答も一部でみられました。また優先するものというより、自分が回答しやすい部分を回答していると思われる受検者も少なくなかった印象です。本設問は、その前の設問「事例相談者の相談者への対応について「問題」だと思うこと」を具体的、網羅的に把握できていることが重要になりますが、そこに真剣に向き合うことができ

ていない場合、「優先される指導」の内容が浅くなることは必然のように思います。
・アセスメントツールの活用や各種技法を羅列した回答も見受けられました。知識の幅も指導者としては大切なことではありますが、事例相談者に対し何をするのか、その目的や根拠を説明できる力をつけていただきたいと思います。

■　その他
・用語の誤表記や文法の間違いが多かったように思います。また、丁寧に書かれていないため読めない回答も一部で見られました。

＜実技（面接）試験の傾向＞

■　面接試験全体（ロールプレイと口頭試問）について（総評）
　試験における自分自身の態度や関わりに気づき、それを言語化できる方が増えた印象です。指導者という立場であっても、事例相談者と共に研鑽していこうとされる姿勢が多くの受検者から見られました。
　事例指導の場であっても関係構築が重要であることは周知のことですが、限られた時間で、天気の話や事例相談者の経験談など、関係のない話題で時間を費やしている方が多いことが少し気になりました。またこれは繰り返しのコメントですが、事例相談者の問題や課題とは関係のない、事前に用意したと思われる理論等を指導される受検者もまだ少なくなかったと思います。
　私たちキャリアコンサルタントはより良い支援を行うため、継続して事例指導、スーパービジョンを受け、自身の相談を振り返る機会を設けていきましょう。

■　基本的態度について
・多くの受検者が、誠実で温かみのある態度で丁寧に対応されており、事例相談者が安心して相談できるような場面づくりを心がけていらっしゃいました。
・意図が適切に伝わるよう慎重に言葉選びをしている印象で、事例相談者に対する敬意を感じました。また教育指導関係を築きつつも、自然体で自分の意識に気づきながら対応している受検者が増えた印象です。
・倫理観をもって実践している、また有資格者として業界や社会に貢献しようという意識を持っていると感じられる場面も増えたように思います。
・一方で、指導への意識が強く、事例相談者に対し誘導的または一方的に指導を続けている場面もありました。また一部ではありますが尊大な態度で独善的な言動があったり、反対に受検者自身の緊張が強く、おどおどして自分のことで精一杯な様子も見られました。
・これは前回の掲載からの繰り返しになりますが、事例指導者（受検者）主導で、事例相談者が不在かのような面談、事前に準備されたと感じられる内容で教授的面談を行っている受検者もまだ一定数いらっしゃいました。

■　関係構築について
・多くの受検者が、事例相談者を尊重しながら相談内容を把握するために傾聴を適切に行い、関係性を深めようとしていらっしゃいました。また受容・共感を実践し、表情・態度などの非言語表現も含めて事例相談者に寄り添えていると感じました。
・一方で、問題把握が不十分な段階で対策を講じてしまったり、一方的な持論を展開するなど、事例相談者の来談目的に応えられていない、ついては関係構築の意味を理解していないと感じられる面談も一部で見受けられました。
・天気の話や事例相談者の経験談など、関係のない話題で時間を費やしている場面も見られたことが少し気になりました。実践においてもそうですが、事例指導の時間は事例相談者のためのものですので、関係構築の上で、本当に必要な話であるかということを意識して行っていただきたいと感じました。
・事例相談者を褒めすぎたり、事例相談者の発言をひたすらに繰り返すなど「受容」についての理解不足を感じる場面が一部で見られました。

■　問題把握について
・事例相談者が何をしようとしているのか、何に困っているのかということについて、事例を通じ、相談者への対応の意図等をしっかりと確認し理解しながら指導を進めることができる受検者が増えているように思います。
・一方で、一部ではありますが、事例相談者の問題を決めつけ、その方向に誘導しようとしている受検者がいらっしゃいました。事前に準備してきたと思われる指導内容に固執し、表面的な問題に終始して、本質的な課題にアプローチできない場面も見られました。また事例相談者と問題を共有できていない受検者も一定数いました。

・これは前年度からの繰り返しの内容になりますが、問題把握の捉え方について、事例相談者の問題なのか、相談者の問題なのかを混同している場面はまだ多かったと思います。

■　具体的展開について

・事例相談者が感じている違和感や問題点を捉え、共有されている場合においては、30分という限られた時間であっても一定程度の目標の設定ができ、双方が納得できる指導の企画・提案ができていたように思います。
・また多くの受検者からは、事例相談者の育成に関わっているという意識が伝わってきました。
・一方で、関係構築や問題把握が上手くできていないため、結果、目標設定にずれが生じ、的外れな展開になってしまい、事例相談者の気づきを得られるところまで行かないケースも散見されたことが気になりました。また事例相談者の状況と一致しない、一般的な目標を設定される受検者もまだ少なくないように思いました。
・事例検討に終始し時間をかけ過ぎてしまうなど、時間配分が適切でなかったり、問題の本質に迫れずに同じコメントを繰り返しているだけになっているなど、進め方に課題がある受検者も見受けられました。

以上